

五、妙火

5. Feuer.

5. Fire.

(クアスツアニフトのスタイン氏の得たるものは、ルコック氏之を英譯して、Journal of the Royal Asiatic Society 1911. に載せ、魯西亞のものはラドロフ氏之を譯して、千九百九年“Chustuanift, das Bussgebet der Manichäer”の名によりて波得堡より發行せり。)

五類の魔の名は殘經中に明らかには數へざれど、然も亦猛火、毒、烟霧、暗黒の四者は惡魔の力能として諸所に記されたり、而して此等の五明、五魔を以て此世界を作れりと成すものは、實にマニ教の精神とする所にして、是によりて世界の明暗兩者の争鬪が永久に斷えざるを説くものなりとす、殘經が此點に於てフイーリストの記する所と一致すること、恰かも符節を合するが如くなるは此經の性質を定むるに於て極めて重要なことなりとす、只だ殘經には何が故に此等の五明身が暗坑無明境界に存在せしやについては記する所なけれども、必ず之れ先きに魔軍との戦に敗れて暗坑中に陥没するに至りたる事情を省略せしに止まるなるべし。

更に又た殘經四枚右に記する所によれば、惠明使なるものが其五體より五施を化出したりとして、憐愍、誠信、具足、忍辱、智惠の五明を擧げたり、之れ亦たフイーリストに記せる明神の五從屬に比するを得べし、即ち

憐愍 〓 Liebe.

誠信 〓 Glauben.

具足 〓 Treue. (?)

忍辱 〓 Edelsinn.

智惠 〓 Weisheit.

波斯教殘經に就て